

《小学生の部》
佳作（警察庁交通局長賞）

茨城県下妻市立大形小学校
2年 染野 心暖

かぞくでまもるこうつうあんぜん

わたしのかぞくは、おとうさん、おかあさん、いもうと、おとうとの五人です。いもうとは五さい、おとうとはまだ二さいです。わたしは、一ばん上のおねえちゃんなので、みちをあるくときは、いもうとやおとうとの手をにぎって、みんながあんぜんにすごせるようになっています。

わたしは、まいあさ学校まであるいていきます。いえを出るとき、おかあさんはいつも、「車に気をつけてね。」

と声をかけてくれます。さいしょは、あいさつのようにきいていましたが、ある日、そのいみがよくわかるできごとがありました。あさ学校へむかっているときに、おうだんほどうのしんごうが青になったのでわらうとしました。すると、よこから車がはしってきました。とまると思ったら、その車はまがってきて、わたしの目の前をとおりすぎました。もし、かくにんしないであるき出していたら、とてもあぶなかつたです。そのとき、「しんごうが青でも、右と左をよく見てからわたるように。」というおかあさんのことばを思い出しました。

わたしのかぞくは、こうつうあんぜんのために、三つのやくそくをきめています。

一つ目は、「しんごうはかならずまること」です。赤しんごうではぜったいにわたってはいけないし、青になんても右と左をよくたしかめてからわたります。

二つ目は、「車にのるときは、かならずシートベルトをすること」です。おとうさんやおかあさんがうんてんするときも、どのせきにすわるときも、いもうとやおとうともかならずシートベルトをします。おとうさんは、

「こうつうじこからいのちをまもるために、シートベルトはたいせつだよ。」といいます。でも、おとうとは、チャイルドシートのベルトをいやがるときがあります。そういうときは、わたしが先にシートベルトをつけるところを見せると、おとうともまねをしてつけることができました。おとうさんやおかあさんが、

「おねえちゃんがお手本になってくれて、たすかるなあ。」といつて、ほめてくれました。

三つ目は、「車のちかくをあるくときは、すこしはなれること」です。どうろのはしにと

まっている車は、きゅうにドアがあいたりはしり出したりするかもしれません。車からすこしはなれてあるけば、気づいてよけることができます。子どもは小さいので、うんてんしゅさんから見えないことがあるそうです。だから、まわりをよく見て気をつけたいと思います。

この三つのやくそくをまもることで、わたしたちはあんぜんにすごせています。これからも、かぞくといっしょにこうつうルールをまもりたいです。なぜなら、じぶんのいのちもかぞくのいのちも、とてもたいせつだからです。